



アパートの中庭で フリーマーケット♪



ドイツ人は質実剛健で、倹約が大好き。フリーマーケットも楽しみのひとつで、セカンドハンドの商品に抵抗がない。最近人気なのは、一般の人がアパートの中庭でフリーマーケットを開くというもの。都会はアパート住まいが主流で、建物の裏は庭になっているのが一般的。その中庭でアパートの住人たちが、不必要になったものを持ち寄って売ろうというアイデアである。

これまでも個人宅の庭でフリーマーケットを開くのは時々あったが、周知するのが難しく、なかなか人が来ない。そこに目をつけたのがミュンヘンの企業家である。10年以上前に始め、今ではベルリンやドルトムントなど全国9都市で開かれている。例えばミュンヘンでは市内のある地区で日にちを決め、出展者を募ると、数十から数百グループ集まる。出展料は人数にかかわらず15ユーロで、それにより事前にインターネットでお知らせが公開され、地元でチラシが配られる。このようにミュンヘン市内20ヶ所で、日にちをずらしてほとんど毎週末開催されており、住民の楽しみのひとつとなっている。

ハノーファーでも昨年からはじめ、私も先日初めて出かけた。35組が出展しており、ちらしを手にあちこち回った。古くて美しい建物だなと以前から思っていたところに入ると、中庭も素敵。服や靴、アクセサリーをはじめ、雑貨や家具、子ども用品などさまざま。遠くから散歩がてら冷やかしに来ている人もいて、思った以上にぎわいだった。中には手作りの小物を売ったり、ワインやコーヒー、ケーキを用意してカフェみたいなスペースのあるところも。私も冷やかしのつもりだったのに、小さな木製の棚をつい買ってしまった。

フリーマーケットは、物を大事に使うことにつながる。自分が大切に使用してきたものが、また誰かの役に立つと思うとうれしいもの。売る人、買う人、ただ見に来た人が気軽に話し、新しいコミュニティの輪が生まれている。他人の暮らしぶりを垣間見られるのも魅力である。これもある意味、新しいライフスタイルの流れだろう。人々の関心のあるところをうまくついた、ドイツならではのビジネスだと思った。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

ドイツで子育て



ドイツは16州あり、混雑・渋滞をしないよう州ごとに夏休みをずらしています。今年うちは6月23日から8月3日が夏休み。さっそく信州に里帰りし、明は3週間小学校に通いました。水泳、授業参観、田んぼで草取りやアイガモの世話と盛りだくさん。毎日「あー、楽しかった。1日が2日に感じられる。楽しすぎて大変」と言いながら、満喫しました。

理科と算数のテストは90点取れたけれど、漢字テストは受けず、その間、明だけ国語辞典を読む自主学习でした。漢字は読めても、書くのはまったく難しい。もうついていけなくなったか、と親としては残念だけれど、明は「『ぼくは明です、8歳です』を手話で自主学习したよ」とるんるん。小学3年生って、人生で一番楽しい時期なのかもしれません。そうそう、女の子から初めて手紙をもらいました。